

## 概数について

### 1. 概数の仕方

- ①〇の位までの概数にする。

(例) 61986→千の位までの概数にする。

→1つ下の位である百の位を普通は、四捨五入する。→62000

- ②上から〇桁の概数にする。

(例) 61986→上から2桁の概数にする。

→上から3桁目を普通は、四捨五入する。→62000

### 2. 概数の種類

- ①四捨五入

- ②切り上げ

- ③切り捨て

} 場面や状況によって選択できることが大切。

※教科書は、四捨五入が中心になっている。

### 3. 概算

○桁数の多い数の計算や複雑な計算をするときに概数を使って結果の近似値を求めること。

○普通、四捨五入した概数を使う。

- ①概算の意義

・結果や計算の見通しが立つ。

・極端な結果の誤りを防ぐ。

・詳しい結果を必要としないときに計算が速く行える。

- ②加法・減法

・千の位までの概数にする

$$54640 + 23320$$

↓ ↓

$$55000 + 23000 = 78000 \quad (\text{減法についても同様})$$

- ③乗法

・上から2桁の概数にする

$$436 \times 186$$

↓ ↓

$$440 \times 190 = 83600 \rightarrow 84000$$

- ④除法

・上から2桁の概数にする

$$4458 \div 113$$

↓ ↓

$$4500 \div 110 = 40.9 \dots \dots \rightarrow 41$$

### 4. 見積もり

○見積もりとは、数量や図形について、そのおよその大きさや形をとらえたり、解決の結果や方法について見通しをもったりする思考様式である。

○積や商の見積もりは、上から1桁の概数にして計算する程度で十分であるので、普通、上から1桁の概数で計算する。四捨五入した概数を使う。

○和や差については、桁数が異なる場合があるので、見積もりというより概算を使う。

### 5. 望ましい見積もりの方法

- ①乗法

・(上から1桁) × (上から1桁) → (上から1桁)

- ②除法

・(上から2桁) ÷ (上から1桁) → (上から1桁)